

令和7年度 内子高等学校 シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2単位	学 年	1 学年
教科書	高等学校 生物基礎 (数研出版)		副教材等	二訂版ニューステージ生物図表（浜島書店）、 新編生物基礎 準拠サポートノート（数研出版）			

1 学習の目標

- ・生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことができる。
- ・観察・実験などを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。

2 学習の内容

学期	単元・項目	学習の内容	備考
第1学期	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> ・生物は多様でありながら、細胞、遺伝物質、エネルギー代謝などの面で共通性を持っていることを学びます。 ・DNAの構造、複製方法や遺伝情報の発現（タンパク質合成）について学びます。 	期末考査
第2学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき 第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解し、からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることについて考察します。 ・免疫が医療に応用されていることについて学びます。 ・植生の成りたちや相観、植生の成り立ちを生み出します。 	期末考査
第3学期	2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを学びます。 ・生態系の成りたちや、生物どうしの関係が種多様性の維持に関わっていることを学びます。 ・人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について学びます。 	学年末考査

3 評価の規準

【知識・技能】

日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

観察、実験などを通じて、科学的に探究する力が養われている。

【主体的に学習に取り組む態度】

生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

4 評価方法

学期ごとに、上記の評価の規準の3つの観点から、学習活動への取組、定期考査、小テスト、振り返りシート、ノート、プリント、レポートについて評価します。また、各学期の評価を総括し、学年末の成績をA・B・Cで評価します。

5 学習のアドバイス

予習・復習を確実に行いましょう。授業中に理解できなかったところは、その日のうちに授業担当教員に質問するなどして理解に努め、日々の学習内容を確実に理解しましょう。また、日頃から身の周りの生命現象に興味を持ち、疑問を抱くことが大切です。実生活と知識が結び付けば、より理解が深まります。